

平成15年度決算 一般会計

22.9%

保健福祉費

福祉、保健、医療などに係る経費
1,844億円

生活保護費の増、児童扶養手当支給事務の移管などにより前年度比8.7%増

歳出総額
8,041億円

前年度比1.2%減

土木費

道路や公園の整備などに係る経費
1,117億円

道路新設改良事業費、モエレ沼公園「ガラスのピラミッド」建設費などの減により前年度比11.6%減

13.9%

医療や福祉に係る「保健福祉費」が、全体の約2割を占めるのね。

この数字、金額が大きすぎて実感がわきません。

市民1人当たりには換算すると、市税の負担は139,691円、サービスを受けた額(歳出総額)は434,717円になります。

11.9%

公債費

市債の償還などのための経費
961億円

金利の低下により利払いは減ったものの、元金償還金の増により前年度比4.2%増

保健福祉費の伸びの主な要因は、その5割を占める生活保護費の増加にあります。市内の生活保護世帯は、この1年で約2,000世帯、7%も増えているのです。

歳入全体が減っているけど、その原因は？

景気低迷の影響から、歳入の中心となる市税が、平成9年度以降減り続けています。今後も大きな伸びは見込めず、歳入や歳出の抜本的な見直しが不可欠です。

経済費

産業の振興などに係る経費
802億円

コンベンションセンター建設費の減などにより前年度比11.5%減

10.0%

道路や公園の整備といった公共事業は減っているんだね。

この数字だけ見ても、財政状況が良いのか悪いのかわからないけど。

一言で言うと、年々、財政状況が厳しさを増し、市が自由に使えるお金が減っているといえます。

4.8%

教育費

学校教育や生涯学習などのための経費
384億円

機構改革に伴う体育総務費などの他科目への予算の移管などにより前年度比3.5%減

その他

総務費、職員費など
2,933億円

※歳入との差し引き額69億円は、翌年度への繰り越しと、基金への積み立てに充てています。

36.5%

国や地方の歳入が減る一方、道路や公園など社会資本の整備も進んだため、公共事業は縮小する傾向にあります。

財政がわかる2

市債入門

市債は、将来の市民にも経費を分担してもらう大切な仕組み

市債は道路や公園などの長い年月使用する施設を建設する場合などに限って発行しています。そのような施設の整備費用は、建設したときの市民だけがすべて負担するのではなく、「分割払い」にすることで、未来に利用する市民にも公平に負担してもらっているのです。

市債残高は2兆2,704億円。市民1人当たり123万円

平成15年度決算の市債残高は、一般会計、特別会計、企業会計を合わせると、2兆2,704億円。市民1人当たりには換算すると123万円となります。

将来に多大な負担を残さぬよう、新たな市債発行はできるだけ抑制するとともに、計画的に返済しています。

市債残高の状況(平成15年度)

